

4-(1)-⑱ 教育力向上の取り組みの概要

区分	機能
第1回 学内研修会	<p>「芸工大生ってどうなの？」／平成30年7月11日、教職員23名 芸工大生の「出来ている事」「出来ていない事」を明らかにし、講義・演習、授業、イベント問わず様々な学習機会での向上を働きかけ、キャンパス全体を能力醸成の場とするために実施しました。芸工大生の現状、実際に把握、総括することで、教育の目標設定と教育方法の検証に資することが目的です。様々な分野の視点・観点から学生の現状を意見交換する機会は少ないが、多角的な視点を心得て俯瞰することで共有すべき「出来るようになってほしいこと」が見えてきました。</p>
第2回 学内研修会	<p>「地学・教職・学職一体の教学改革～地方小規模をメリットに転換する覚悟～」／平成30年9月11日、教職員150名 大森昭生 共愛学園前橋国際大学学長を講師に、教学改革と教職一体ガバナンスや学修成果の見える化に向けた取り組みについて教職員が学びました。他大学の事例を知る機会はこれまであまりなく、参加者からも有意義な会であったとの感想が多数ありました。</p>
第3回 学内研修会	<p>授業の進め方・教授法の工夫への理解「事務局職員授業見学からのフィードバック」／平成30年10月3日、教員21名 前期授業期間中に事務局職員がSD研修で実施した授業見学から、諸事項を共有し、今後の教育力向上、改善への新たな視点を検討しました。事務局職員が客観的に授業を観察した感想から、授業を実施する上でのチェックポイントを得ることができました。</p>
第4回 学内研修会	<p>学生参加型FDさんまるカフェ「いい授業ってどんな授業？」／平成30年10月31日、教員17名、学生25名 授業は教員と学生が共に創るものとの考え方から、共に創るにはどうすればよいか、学生から見た“いい授業”とはどのようなものか、観点等を聞き取り授業の在り方について考察しました。学生の、教授内容の受け取り方への理解、教員の教育のねらいへの導きとのギャップや教授法の検証を目的としました。学生が授業にどのような姿勢で取り組んでいるか理解できるとともに、そう考える受講者も居るということを踏まえて内容や伝え方を考えることは必要と実感しました。また、教員が直に教示する機会にもなり参加学生にも効果がありました。</p>
第5回 学内研修会	<p>「カリキュラムを深める～想像力基礎ゼミナールへの理解」／平成30年11月28日、教職員22名 初年次教育プログラム、1年次全学必修科目として受講する想像力基礎ゼミナールについて理解し、カリキュラムにおける位置づけやねらいを共有して、芸工大生としての学び方の基礎について考察しました。新入生の課題が共有されたほか、授業実践の紹介により各クラス共通の骨格とクラス毎の多様な展開について理解が深まりました。</p>

第6回 学内研修会	<p>授業設計・シラバス作成FD研修「授業設計シート(仮称)」を活用したシラバス作成と成績基準等／平成 31 年 1 月 23 日、教員 11 名</p> <p>科目内容と身につけるべき能力要素との関連、授業と授業外学習との関連、到達目標と評価の関連をどのように捉え、授業内容構成にどのように展開していくか、授業設計者の理解促進を図りました。また、「授業設計シート」等を活用し、教育の明確化・可視化とPDCAへの可視化、見せる化への展開方法を模索しました。授業内容と授業外学習時間・内容、ディプロマポリシーとの整合をはかるうえで、シートの活用は授業設計の論理的設計のベースとなることを理解できました。</p>
授業改善アンケート	<p>平成 30年度「授業改善アンケート」を実施</p> <p>前期・後期それぞれに、開講した全科目について、受講学生による授業運営に関するアンケートを実施し、学内共有、担当教員へのフィードバック等授業改善と教育力向上にむけた FD 活動への展開などに活用しました。</p>

学修・生活アンケート	<p>平成 31 年 1 月「学修・生活アンケート」を実施</p> <p>本学生の学習への意欲、学生としての意識、生活状況等を把握し、教育内容や学習環境、学生生活の改善にむけアンケートを実施しました。</p> <p>調査は、本学生専用の学内学修 WEB サイトの回答システムを活用し、全学生の 61%から 53 項目への回答を得て、改善活動に活かしています。</p>
FDネットワークつばさ	<p>東日本に所在する国公私立大学で組織・連携する“FDネットワークつばさ”に参画し、授業改善、カリキュラム・教育制度改革などについて取り組んでいます。</p> <p>9 月 山形大学教員研修会「インストラクショナルデザインに基づく授業設計と授業運営」に教員4名が参加し、授業科目の存在意義、成績評価法、授業方法などについて、改めて学びました。</p> <p>2 月 学生が取り組んだ授業の、自ら学びの目標を設定し活動した結果について発表し、学生自身の振り返りと学びを深めることにつながり、参加した教職員は他大学の事例をから今後の学習への視座を得る機会となりました。</p>
教務事務の改善	<p>8 月 宮城県地区私立大学教務事務研究協議会(15 大学・短大で組織)に参加し、カリキュラム・学生支援・関係法令改正対応などについて、教務事務を担当する職員が毎年定期的に研究、協議を重ねています。</p>